

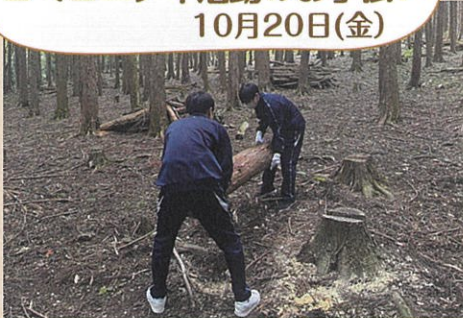
第33号

ほそごう地域コミュニティ推進協議会
 〈細河地区〉
 NPO法人 細河みどりの郷
 〒563-0013 大阪府池田市の中川原町216-2
 TEL/FAX 072-754-5711
 E-mail:hcms@iris.eonet.ne.jp
 URL http://hosokawa-midorinosato.com

細河地域 コミュニティ ニュース

学校支援連携事業

ほそごう学園9年生が
コミュニティ活動のお手伝い
10月20日(金)



●東山で伐採した間伐材を旧細河小学校の薪割り場へ運んでくれました。

ほそごう学園3・7年生
花いっぱい運動



●園芸高校生、花の会の人と一緒に4種類の花の苗を植えました。



ほそごう学園・五月小3年
大根栽培



●ビオトープに鴨を放鳥しました。

ほそごう学園8年生が
コミュニティ活動を体験
10月25日(水) 26日(木)



サツマイモ



●東山の畑で芋掘りをしました。

大根



●畝立てをし、マルチはりをしたあと大根の種まきをしました。

ブルーベリー



●ブルーベリーに肥料をあげました。

子ども育成事業



●8月20日、不死王閣のプールで水遊びを楽しみました。



●11月19日、中川原の畑で芋ほりを楽しみました。

市長が コミュニティ活動を視察 11月24日(金)



●ほそごう学園2年生と一っしょに芋掘りをした後、東山の大根畑、伏尾のブルーベリー園・ビオトープ実験場を視察後、配食弁当を試食されました。

今年もボタフェスがやってきました

園芸高校も初参加



●庭づくりの様子を見せてくれました。



●花の販売とミニ盆栽コーナーも



●焼き芋と椎茸も販売しました。



コミュニティもブースと食事を担当



●園芸高校の生徒たちも福祉部会の豚汁とカレーをおいしそうに食べていました。



●野菜とパン、花の販売は行列ができるほどの人気でした。

ライブ生花

ステージ発表

セリ市



●ほそごう学園の吹奏楽部がオープニングをかざってくれました。



薪割り体験



●もう1本もう1本と間伐材を運び、薪割り機で割られていく様子を目をきらきらさせながら見ていました。



ジャンベの演奏



ファッションショー

●2日目朝のバリアフリータイムでは、ボプラ学園の生徒さんたちが、ファッションショーを披露してくれました。



和太鼓 浜風



●迫力ある演奏を今年もきかせてくれました。

ほそごう学園の1年生、3年生も

1年生は小人を作り、3年生はスタンプラリーとおめん作りを担当しました。

地元の植木屋さんも



●ワークショップもありました。

児童館も



●どんぐり工作をしました。



●スタンプラリー



畑で採れた新鮮野菜

毎週土曜日9時から、みどりの郷案内所で、細河で採れた野菜や花などの販売を行っています。開店前にはいつも行列ができる人気朝市です。来られた方は、開店するとともに、かごいっぱい買い物されます。



●料理の仕方も添えられて



お客さんの声

「朝市の10年来のファンです。新鮮で安いのがいいです。」「野菜が豊富にあって、人との出会いがあるのもうれしいです。」

売り場の人の声

「野菜を使った料理の交流ができるのがうれしいです。」

細河ええとこ

細河の豊かな自然を体験しにきませんか。

里山保全

里山環境整備で生み出された間伐材を使った薪が、みどりの郷案内所や五月山公園で販売されています。

細河の植木

いつも yobou いけだ

池田市在住の65歳以上の方を対象に、これからの人生をより豊かに、やりがい溢れる健やかな毎日を過ごすために企画された講座が「いつもyobouいけだ」です。前期の3つの講座のうちの1つが「細河の植木しごと体験」でした。緑向ガーデンの谷向さんから、普段では知ることができない職人技を体験させてもらいました。



●植替えの仕方を市役所玄関横で学び、ほほえみの園の庭で剪定の実習をしました。

余野川の生き物たち



五月山自然観察インストラクター連絡会による池田自然観察会「余野川の生き物たち」が、8月20日に、中川原橋下で開催されました。そこで捕れたエビやカニ、魚たちを、「池田・人と自然の会」の今城さんが水槽に入れ、後日余野川の学習に来たほそごう学園の3年生にミニ水族館として見せてくれました。子どもたちは興味津々。自分たちもと、網やバケツを持って、川の生き物探しをしました。



●ミニ水族館



●魚取りの様子



●水槽をみせる子ども

細河地区 ミニ運動会

細河地区ミニ運動会が、10月8日(日)、旧細河小学校体育館で、行われました。小さな子どもから高齢者まで、たくさんの方が競技を楽しみました。子どもと大人と協力しての競技では、小さい子どもをかかえて必死に走るお父さん、孫といっしょに走るおじいちゃん、お父さんお母さんを応援する子どもたちの姿がほほえましかったです。



ジャンプでGET!



●ガンバレー!!と応援する子どもたち

紅白玉入れ合戦



足で勝抜けじゃんけん



玉なおし



大玉運び



●競技のあとは参加賞。お疲れさまでした。



壁ドンリレー



今年も多くの人が、旧細河小学校運動場に集まりました。オーブニングは、ほそごう学園金管クラブによる演奏。舞台上のゲーム、たくさんのお客さんに楽しんでいただく時間は、とても楽しい時間を過ごしました。

第37回 細河まつり '23

7月29日(土)



太鼓



金管クラブ



ピンゴ



缶つみ



細河分団が大阪大会に



池田市には、7つの消防分団(池田・鉢塚・北豊島・神田・呉服・秦野・細河)と女子分団があります。細河分団は25名です。市内で火事が起こった時に、消火活動を行ったり、消火の後始末をしたりします。今年度は細河分団が、豊能地区を代表して、第67回大阪府消防大会に出場しました。大会には、大阪府7地区からそれぞれ代表が出ます。指揮者と1番員から4番員までの5名と補助員1名のメンバーで、規律・操作・タイムの採点基準で競います。大会に出るために、例年以上に力の入った訓練に、市長も激励に来てくださいました。








●市長の激励。



大阪で一番！「世界に誇れる安全で安心なまち池田」をめざして！！

防犯・防災

細河地域 犯罪・災害発生状況 2023年 1/1～10/31

   	犯罪 ●事務所荒し 1件 ●バイク・自転車盗難 5件 ●車上ねらい 2件 ●非侵入窃盗 その他 4件 ●万引き 1件 ●自動車部品ねらい 1件 ●器物損壊 等 1件	●自動販売機ねらい 1件 ●詐欺・業務上横領 偽造有印公文書行使 6件	    
	災害 ●交通事故 31件 ●火災 12件 ●台風 4件 ●地震 0件 ●水害 0件		



ええトコ マナリ荘

大阪池田マナリ荘の、赤井浩と申します。2020年秋に、家族と共に東山町に移り住み、ちょうど3年が経ちます。

マナリ荘という名称は、わたしが初めて細河を訪れた際、五月山の稜線を眺めながら、ふと、インド北部のマナリに似ていると直感したことに因ります。様々な境界のく間（あわい）、あるいは合理的な世界からは疎んじられがちだけれど、人間どうしを結びつける上で重要だろうく魔なるもの、例えば芸能/音楽のもつ魔術的な力がバイブレートし、共鳴するような場—マ（間/魔）がなるところ—をつくりたい・・・といった、恐らく非常に分かりづらい私的な語呂合わせにも因ります。

現在は、週に2回（木・金）のランチ営業やイベント出店、また、西アフリカ音楽の紹介を軸とした音楽イベントを不定期に企画しているぐらいですが、今後は子連れどうして宿泊したり、音楽談議を肴に宵を越せるようなゲストハウスの営業を企んでおります。とにかく、いろいろな人が集える面白い場をつくっていただけたらと画策しておりますので、みなさまどうぞお見知りおきを。



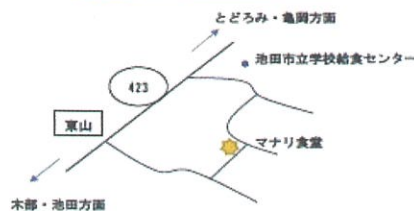
- 所在地 〒563-0012 池田市東山町448 *駐車場3台分あります
- 営業時間 毎週木曜・金曜 11時～14時



●細河コミュニティセンターにて、西アフリカの太鼓（ジャンベ・ドゥンドゥン）の教室も開催しています。みなさんもぜひ一緒に叩きませんか。



●お弁当・ドリンク、テイクアウト可能です。3名様以上でのご来店の際は、事前にご一報頂けますと嬉しいです。



マナリ荘 QRコード

細河歴史・文化遺産

細河の植木のおこり

細河の植木の歴史は古く、室町時代（一五三二年ごろ）から始まったといわれています。土地は排水がよいため、米作にはむかず、山林用の杉の苗や桑の苗を作っていました。江戸時代初期（一六一五〜一六八一年）には、他の産地との交流が盛んになり、珍しい種類の樹木を集め、苗木・盆栽・花卉を栽培していました。

江戸時代前年（一六九八年）には、木部・川原・東山等の人たちは天満の植木屋に出荷し、接木の方法を身につけていました。また、（一七八九〜一八〇一年）には、大阪以外の地方にまで、植木を出荷していました。

このように、細河の植木は、今から四五〇年前から始められ、江戸時代には細河が植木の産地として発展しました。

接木の巧者「橘 兵衛」

江戸時代の初めから、細河の植木づくりは盛んで、その名は京にも知られていました。たまたま、一六五二（承応元）年六月、大内裏が火事になり、紫宸殿左右の桜と橘がそのために焼け、枯れてしまいました。

そこで、一六五五（明暦元）年、細河で植木の一番上手な六蔵という人が御所によばれて、焼失した橘に接木をするように言われました。

六蔵は、これを見事に生き返らせたので、そ

のほうびとして、「橘 兵衛」の名をもらった、という話が伝わっています。

木部牡丹のおこり

細河谷を中心とする地域は古くから今日まで、わが国植木栽培の中心地として、その伝統の古さにおいても、規模の大きさにおいても、その名は世に広く知られていました。

中でも、木部はこの中心地で、「橘 兵衛」の名をもらった六蔵という人も木部の出身と言われています。

木部はまた牡丹の産地としても天下に鳴り響いていました。幕末の詩人藤井竹外は、この木部を訪れてこんな漢詩を残しています。

「望木部村、在池田北二里、一村皆花戸」

遥望別村笻 霞 千金誰解買名花

私田尽 牡丹花 不景尋常百姓家

（はるかに木部の村を望めば、まるで紅い花笻がかすんで見えるようだ。この花を千金を出して求めようとする人達もいるという。村人たちの田園はすべて牡丹の花で埋めつくされている。これは尋常の農家ではない。）

この詩は少しおおげさにつくられています。

この頃の幕府の力は弱まっていたが、政策の一つとして田や畑には米や麦をつくるよう強く命令していました。しかし、木部村では牡丹をつくるのが許されていました。

いつごろから木部に牡丹がつけられるようになったのかを知ることはできません。しかし、かなり古いものではないかと考えられます。それは、池田の文人肖柏が「牡丹花」と名のつたことが何か木部の牡丹と関係があると考えられ

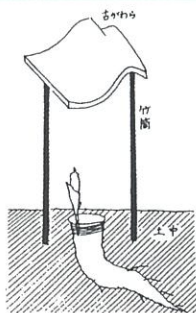
るからです。

はるさかぬ 花の心や 深み草

これは肖柏の牡丹を詠んだ句で、この「深み草」とは牡丹の別名です。木部に当時、すでに牡丹の栽培されていたことは、《産業事蹟》に「此業天文の頃より起こる」とあり、この天文のころが肖柏のなくなったころと同じことから想像できるのです。

牡丹の接木

台木はぼたんと言わくやくとの二種類ある。秋になると、台木に切れ目を入れて、二つぐらい芽を残した切穂を穂木として台木につく。接木が終わったら、乾かないように畝をつくり、一メートルぐらい間をあけて植え、竹筒（二〇センチメートル）を輪切りにして、土中に少し埋める。そして、直射日光と雨水がはいらないように古瓦をのせる。



【※細河の植木】(辰己良一著)より

植木の名声と繁栄

文化・文政のころには、白牡丹一七二種、紅牡丹一六一品種あり、今日でも及びつかない華麗さでした。このように品種改良によって、牡丹はよりたくさん売れるようになり、牡丹屋小兵衛はその利益で「陽松庵」を建てました。

「郷土学習教材 ほそかわ」

(一九九一年三月三〇日発行) より